

## 人生最初のターニングポイントは高校受験だった

～ あの時、高校受験を勧めてくれた恩師がいたから今の私がいる～

2月に入り日本は高校受験シーズンに入りました。ガーナの高校受験は6月におこなわれます。今年の高校受験は6月15日から5日間予定されています。日本と違うのは一日で全科目の試験は行われず、偏差値の高い学校の受験科目は英語数学理科の3科目(1科目の場合もあり)で、高校のレベルによって受験する科目数が増えてくるのです。私の活動する村の学校の生徒は受験が開催されるほぼ全日程の試験を受けます。村の子どもたちの高校進学率は、10年前のデータではありますが85パーセントです。エビデンスはありませんが今もこの進学率は変わらないものかと思います。なので、高校受験する生徒は中学3年生に進級するけれども、高校の進学を考えていない生徒は中学3年生には進級しないのです。家庭内に不幸が生じたりすると村を離れ親族のいる別の村や大きな町へを引っ越しをしてしまいます。そうした背景から村の高校進学率を10年前のデータを記載させていただきました。

私には高校受験の話になると忘れられない恩師がいます。中学3年生の時の担任の先生です。たしか当時体育大学を出たでいつも水色のジャージを履いていてバスケット部の顧問をしていた背がすらすらと高い男の先生でした。早く社会に出ることに憧れていた私に最後の最後まで高校に行くことを勧めてくれたのが先生でした。今、どうかはわかりませんがその当時、公立がもしダメだった時にという考えで滑り止めに私立の受験というのもありました。私立の受験が終わっても頑なに社会に出ることを望んでいた私に「高校に行ってからでも遅くはない。」と諭してくれました。高校に進学しようと考え直したのは願書提出まであと数日という時だったかと思います。もうだいぶ前の話しです。記憶が断片的なものとなってしまいましたが、忘れずに覚えているのは先生が受験当日に受験校まで引率してくれたことです。そして、先生が腕にはめていたシルバーの蛇腹の腕時計を貸してくれたことです。私は先生にとって扱いにくい生徒でした。早く社会に出ることに憧れそれでいて中途半端な不良でした。けっして勉強が出来ない生徒ではなかったけれど、むしろ読書感想文の書き方が上手と現国の先生に褒められたり社会公民のノートのまとめ方が上手だと先生に褒められたりと私を褒めてくれる先生方が大好きでした。ただ早く社会に出て一人前になりたいと願う14歳でした。この時、最後の最後まで高校受験をすることを勧め諭してくれなかったら今わたしはここガーナにはいなかったです。今とは全く違う生き方をしていたと思います。先生のおかげで受験した1校の公立高校に進学し、この進学した高校に在学中は知ることもなかった心強い友が今私のかげがえのないものとなっているのです。高校受験、それは私のその先長い人生の初めてのターニングポイントに思えてなりません。高校受験はそれだけ私にとって大きな出来事でした。そしてもし願いが叶うなら、扱いにくい生徒だった私に親身になってくれた先生に会いたいです。2020年最初のガーナ挨拶は、私の忘れられない恩師の事を書かせていただきました。ガーナの子どもたちが私との出会いがこれから先の長い人生でかけがえのないものとなるよう努めていきます。

ガーナ挨拶 No 31 2020/02/10

國分 敏子